

令和8年度

檮淵小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○ICTを効果的に活用し、基礎的・基本的な知識技能の定着を図る。
○主体的に学習に取り組む児童育成をめざした、家庭学習習慣の確立。

校長

吉原 稔祐

学力向上推進員

今井 美玖

【各校の取組状況の把握について】

校内研修や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○真面目に学習に取り組み、自分の思いや考えを伝えることができる児童が増えてきている。 ●基本的な計算でも、やや正確さに欠けたり、時間がかかったりする児童や漢字の習得が難しい児童も見られる。また、現在学習中の内容に、既習の知識を十分に活用できていない児童が見られる。	・基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けることができる。 ・さまざまな文章を読む場面において、読み違いや読み飛ばし、思い込みをせずに正しく読み取ることができる。 ・国語辞典の活用や視写、暗唱、文づくりなどをして語彙力を増やし、より適切な言葉を用いて話したり、書いたりすることができる。 ・算数が苦手な児童に関しては、具体	・漢字や計算の復習を繰り返し行うと同時にタブレットを効果的に活用し、基礎・基本の定着を図る。 ・日々の音読指導や日記指導も大切に、適切な言葉を使い、既習の漢字を正しく使えるようにする。 ・徳島新聞「阿波っ子タイムズ」を活用し、正確に読む力や必要な情報を取り出す力を習得していく。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の思いや考えを学級内だけでなく、全校集会や他校との交流の場でも、表現できるようになってきている。 ●自分の考えを筋道を立てて話したり、まとめて文章で表現したりすることに課題がある。	・筋道を立てて自分の考えを明確にして発表したり、文章に書いて表現したり、表現方法を選んで発信したりすることができる。 ・タブレットを効果的に使い、自分の思いや考えを文章に書いて、相手に分かりやすく表現することができる。	・異年齢集団活動や集会活動を工夫することで、話し合い活動が充実するようにする。 ・筋道を立てて話したり、説明したり、話し合いを進めたりするための言葉や考え方の道筋などを指導し、使えるようにする。 ・自分の考えを伝える場面では、相手に分かりやすく話ができるように意識させる。 ・タブレットを活用し、児童同士で互いの			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○社会科や総合的な学習の時間の調べ学習等では、タブレットを用いて意欲的に自ら学習を進めることができる児童が多い。 ●苦手な科目に関して、進んで課題を解決しようとする力や、疑問に思ったことについて自分の力で解決しようとする力をつける必要がある。	・課題や自主学習に積極的に取り組み、さまざまな課題に対して、調べた情報を比較したり、関連付けたりしながら、解決していくことができる。 ・興味や疑問を持ったことに関する本を学校や家庭で読むなど、進んで読書をする習慣を身に付けていく。	・児童の興味関心を見極め、主体的に学習に取り組める授業展開に努める。 ・AIDリルを活用するとともに、他学年の自主学習の様子を紹介、掲示する等、校内全体の家庭学習への意欲を高める。 ・早く登校した時や授業中、休み時間等のすきま読書を進め、読書の習慣化を図る。 ・どの教科も楽しく、興味関心をもって取り組める環境を整えるとともに、家庭読書を定着させていく。			